
第30回全国ホテル研究大会報告

研究大会の概要

全国ホテル研究会第30回大会が7月4～6日にかけて、恵庭ホテルの会共催、北海道・北海道教育委員会、恵庭市・恵庭市教育委員会、北海道ホテルの会、報道関係各社の後援により北海道恵庭市で開催されました。北海道で初めての大会ということで、全国各地からの参加者や地元メンバーなど250名余りが参加しました。

4日の午前中に千歳全日空ホテルで役員会が行われました。市民会館での受付終了後、バスに分乗して旧茂漁川を利用したホテル水路やサケ・マスの孵化場、島松沢の復元された駅通所と隣接するクラーク記念碑（クラーク博士が帰国する時に、見送りに来た学生達と最後に別れた所）、サッポロビール工場を見学しました。夜は宿舎になった千歳全日空ホテルで、北海道ホテルの会の高橋 慎氏を座長に“30年を振り返って”をテーマに座談会が行われました。

5日は開会式が江口建二・北海道ホテルの会会長の開会のことばではじまり、大場会長の挨拶につづいて、来賓の合原由作恵庭市長、原田 裕北海道議会議員が挨拶されました。その後、関谷副会長が環境庁から環境功労者として表彰された旨紹介されました。

開会式にひきつづき小野征彌氏を座長に研究発表・事例報告が行われました。今年の発表の特徴は開催地である北海道の特性を反映してゲンジボタルに関連した発表が少なく、ヘイケボタルに関連した報告が多かったことです（北海道にはゲンジボタルが生息していません）。また、ヒメボタルやスジグロボタル、クメジマボタル、イリオモテボタルなどについての報告もありました。昼の休憩時間には昨年と同様山口県豊田町の藤井勝利氏に



ホテル水路見学



大会公募作品展

よるスライド・ショーが行われました。

研究発表の後、休憩をはさんで田中清一恵庭ホタルの会会長を議長に総会が行われました。総会の内容については別記しました。総会の後、圓谷事務局長から閉会宣言が行われました。大会会場となった市民会館の一角には大会記念に公募した小学生の標語と絵の作品集と昨年の第29回福山大会の様子が展示されていました。

夜の懇親会では、会員や本大会を運営して下さった皆さんの談笑や情報交換で盛り上がり、今大会の運営に携わった北海道ハイテクノロジー専門学校の学生の皆さんの太鼓などが披露されるなど賑やかに進みました。

6日は市民会館で恵庭市開基100周年の記念行事として影絵の上演とアニメ映画「ピピ飛べないホタル」が上映されました。上演にさきだち公募作品の入賞者の表彰が行われました。標語の部で大賞に選ばれたのは小学校5年生の藤野わか菜さんの「みんなの力で育てよう 小さな光を」という作品でした。また、子供達によるホタル・クイズ、北海道ハイテクノロジー専門学校の皆さんによる発光実験も行われました。

大会テーマ：『「ホタル」が飛び交う水と緑の環境元年 ひびけ とどけ 全世界へ』

会 場：北海道恵庭市 恵庭市民会館

大会日程：

7月4日（金）

- 10：00～12：00 役員会
- 13：00～14：00 受付
- 14：00～17：00 見学会（ホタル水路，北海道水産孵化場，史跡島松沢駅遺跡，クラーク記念碑，サッポロビール工場）
- 20：00～22：00 座談会（千歳全日空ホテル）

7月5日（土）

- 10：00～10：30 開会式
- 10：30～16：00 研究発表
- 16：00～17：00 第30回総会
- 18：00～21：00 懇親会

併設 大会記念応募作品展（標語の部・絵画の部），第29回大会報告

7月6日（日）

- 10：00～12：30 記念事業（応募作品入賞者の表彰，影絵・映画上映ほか）

研究発表：

北海道岩内地方のホタルの生息分布	表 芳弘
環境づくりに「地域とともに歩むクラブ活動」	
北海道ハイテクノロジー専門学校ホタルの里づくりクラブ	
恵庭市におけるヘイケボタル生息地の環境調査	
北海道ハイテクノロジー専門学校生命工学技術科環境バイオコース	
北限のよこはまゲンジボタルの保護活動について	よこはまホタル村
山東町蛍保護条例の制定について	口分田政博
ホタルと人工照明との相関関係	
大木美苗・木内香織・田口万里・加藤飛香・芹沢恵美・大竹和男	
種の保存法により緊急指定されたホタル2種の生息現況と課題	大場信義
北広島市におけるヘイケボタルの生態について	守下憲治
ブナ林におけるヒメボタルの生態	三石 弥
スジグロボタルの越冬場所についての若干の知見	後藤好正

大会開催地より

第30回全国ホタル研究大会恵庭大会のお礼

実行委員長 田中 清一*

南は久米島から北は稚内まで、遠路多数の会員の皆様の参加により、意義ある大会に盛り上げて頂き、本当にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

会場をお引受けいただきましたが、馴れぬこととて受付・宿泊・発表その他全般に渡り何かとご迷惑をお掛けしましたが、何卒ご容赦の程お願い申し上げます。

本会としましては、初期の目的以上に市民の関心は高まり、今後の環境保全に種々波及効果が現れるものと期待しております。

第31回は北九州市の開催決定で、すでに北九州市の関係委員の皆様には、準備に気ぜわしい事と推測されますが、前大会開催地の者として、会員皆様に次の点ご協力願えれば、今後の開催地では大変ありがたいと思われます。

1. 申し込み期限の厳守・徹底（会員の当日申し込みまでありまして名簿作成・会計資料に混乱をきたしました）
2. 資料等は、電話依頼のほか文書で行い、送付資料に赤字で取扱法指示必要あり

* 恵庭ホタルの会会長

第30回全国ホタル研究大会の感想

瀧上雅史*

今回、第30回全国ホタル研究大会、恵庭大会に主管する側として参加し、貴重な体験をすることができた。

私達は北海道ハイテクノロジー専門学校の学生で、ホテルの里づくりクラブに所属している。大会では数名のクラブ員で数多くの作業を分担して準備を進めてきた。

特に研究発表には試行錯誤を重ねた。原稿を仕上げることからはじめ、これに合わせてビデオ、オーバーヘッドフィルムを作った。本番を想定し、スピーチの仕方、ビデオ・OHPとのタイミングをうまくはかれるよう、多くの練習を重ねてきた。発表当日までの数時間は、準備の為、夜もよく寝られなかったことを昨日の事のように鮮明に覚えている。

また、見学・懇親会等ではいろいろな方々と話をして、さまざまな情報やアドバイスをいただくことができた。

このように、今大会において、多くの方々から御指導を受けることができ、発見も多かった。

私達はこの様な大きな大会での経験が少ないため、至らぬ点も数多く、大会に参加された方々にはさぞかし気をもまれたことと思う。しかし、大会を実行する側において、裏方の仕事の苦勞、大勢の前で研究発表をする緊張感の中で、大きな自信を得ると同時に、全国の諸先輩から数多くのことを学ぶことができた。

今後、ホテルの里づくりクラブは、全国の諸先輩方からの意見を大切に、学生ならではの活動を展開し、一層の努力をしていきたいと思っている。

*北海道ハイテクノロジー専門学校生命工学技術科2年

全国大会に参加して

三浦 智*

今回の全国ホテル研究大会は、いろいろな面で勉強になった私たちの発表は「環境づくりに地域とともに歩むクラブ活動」という題で発表したが、この発表をするにあたって内幕と反省点をあげると、

- ①私たちホテルの里づくりクラブの主力メンバーが少ないということ。これは、まとめの遅れだけでなく、展示物の制作をも遅らせる結果となった。
- ②練習時間が少なかったこと。発表したのは3人であるが、それぞれのスケジュールがまったく合わず、わずか一週間ほどで全てを仕上げなくてはならなかった。そのため、連日夜の9～10時くらいまで学校で練習し、あとは自宅での練習と時間的にかなりつらい日々が続いた。
- ③大会会場でのビデオプロジェクター、OHPの操作確認が前日まで出来なかったこと。私たちの発表は完璧に時間で区切られていて、ビデオ操作する私が発表者である洲上君に時間ごとに合図を出すことになっていたが、会場での最終的な練習をするまで夕

イミングがわからなかった。

他にも何点か問題はあったが、なんとかクラブ員の力を合わせて乗り切ることができた。

大会3日間の感想として、1日目にホテル水路を見学した時に、全国の皆さんに「いい水路だな」と評価していただけたのが大変嬉しかった。2日目の発表では全国各地の方々の発表を聞き、いろいろなホテルの生態等を知ることができた。3日目では、ホテルの発光実験をし、たくさんの子供達に喜んでもらえたことなど。3日間を通して、今までとは違ったホテルの世界を知ることができた。

全国ホテル研究大会は、さまざまな人たちとも出会うことができ、いろいろなホテルとのかかわり方を学べた。これからもこうして学んだことを「ホテルの里づくりクラブ」の活動に活かしていきたいと思う。

*北海道ハイテクノロジー専門学校生命工学技術科2年

第30回全国ホテル研究大会についての感想

山崎一仁*

今回の全国大会は、とても勉強になったというのが率直な感想である。私達ホテルの里づくりクラブの主力メンバーは4人程度で、多くの作業を分担し、大会に備えた。スライド、オーバーヘッド、ビデオカメラ、展示物の作成……。ああでもない、こうでもないとの夜の9時過ぎまで残り作業を進める。活動発表とはいえ、大勢の前での機会は余りない体験となるだけに真剣に準備はしたが、思う様にはできなかった。懇親会では人とのコミュニケーションを深める為、これも大切な経験だった。ホテルのさまざまな情報をやりとりするという事だけでなく、そういった経験がとても大事だと思う。その意味では今回は大会に参加してよかったと思う。

北海道の子供はあまりホテルを見た事がないという。テレビや映画などでは見ているが実物はおそらく見た事がないのだろう。大会のホテルの発光実験の前日に小学生だろうか、女の子2人がホテルを見たいとやってきた。この時期はホテルが少ないために、子供達にホテルを見せてあげる事などできず、とても残念に思った。自分が子供の頃はホテルはたくさん飛んでいたものだ。今ではすっかり人里から消えてしまったが、何とか子供達には見せてあげたいと思った。次の日のホテル発光実験はホテルの発光をその場で再現するというものだったが、見事に成功し、そこにいた子供達をまたたくまに魅了していった。昨日来ていた子も見ていただろうか？このような子供の笑顔をとるもどすことが、これからの活動の中心であり、目標であると思う。

今回は多くの経験をし、多くの人々とふれあい、多くの思いを込めて大会を終えたが、

このような経験は今後の人生に大きな意味を持つ事だろう。とても勉強になった大会であったと思う。

*北海道ハイテクノロジー専門学校生命工学技術科2年

発表者の感想

小林善行*

恵庭市が整備を進めているホタル水路とホタル消滅地、生息地を比較・検討した今回の調査研究を通じて、環境調査についての知識を学び、環境問題に対して、今まで以上に関心を持つようになりました。発表を行ったことは自分自身の大きな経験となり、これからの学生生活、社会生活に役立てたいと思っております。

*北海道ハイテクノロジー専門学校生命工学技術科



小熊野川「ホタルの里」

南丘コミュニティー委員会

事務局 〒 803 北九州市小倉北区熊谷2丁目3-11

熊谷公民館内

TEL・FAX 093 (582) 8685